

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	グループホームライフケア黒森 【事業所番号：0690800297】		
介護サービスの種類	認知症対応型共同生活介護	定員数	9名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【製品名】NDソフトウェア(株) ベッドセンサー バイタルビーツ  【導入時期】 令和4年12月31日 【導入台数】8台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>【現在の問題点】</p> <p>介護業界の抱える課題のひとつに、介護人材不足があり、事業所内でも職員の身体的・精神的負担が増えてきている。今後益々認知症高齢者の増加が予測されており、専門的なケアが求められている。</p> <p>ベッドセンサーバイタルビーツを使用することで、入居者の情報(睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数)をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護職員の負担を軽減する。</p> <p>また、可視化した情報をもとに根拠に基づきケアを行うことで、認知症ケアの専門性を深めていく。</p> <p>【導入台数の妥当性】</p> <p>根拠に基づいた認知症ケアを実践するため、全ご利用者の居室のベッドに設置していく。</p> <p>【職員との導入意義の共有】</p> <p>法人内の他事業所の運用報告を参考にして、事業所内での会議にて導入目的や製品について職員間で協議し、導入意義の共有とする。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の情報(睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数)を職員間で共有し、業務の効率化と職員の負担軽減を図る。</li> <li>入居者個々の入眠状況や夜間帯の様子を把握して、日中の活動量や生活リズムとの関連性について課題を整理する。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の情報をもとにタイムテーブルの見直しを行い、業務の効率化と職員の負担軽減を図る。</li> <li>入居者個々の1日を通した生活リズムを分析し、根拠に基づいたケアを提供する。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイムテーブル変更後や職員の身体的・精神的負担軽減について効果を検証していく。</li> <li>職員が根拠に基づき、職員が自信ややりがいを持って認知症ケア</li> </ul>		

	を実践することができる。
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）を把握し、個々の生活リズムに沿ったケアの提供ができる。</li> <li>・入居者の夜間の行動や排泄パターンを知ることにより転倒等のリスクを解消する。</li> <li>・入居者個々の入眠状況や夜間帯の様子を把握することにより、日中の活動量や生活リズムについて課題を整理できる。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の見直しや効率化を図ることで職員の身体的、精神的負担の軽減が図られる。</li> <li>・認知症のご利用者の入眠状況を分析し、日中の活動量や生活リズムの改善に繋げることができる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善や職員の身体的・精神的負担軽減について効果的であったと実証される。</li> <li>・可視化した入眠状況を含むデータに基づいた認知症ケアを提供することができる。</li> <li>・職員が根拠に基づいた認知症ケアを実践することで自信ややりがいに繋がり、離職防止や新規職員の採用に繋がる。</li> </ul>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内会議にて導入前導入後の介護時間の短縮やご利用者や職員の変化を検討する場を設ける。</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
R4年4月1日～R4年6月30日	<p>【業務の状況分析・問題点の洗い出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深夜帯、夜間帯は一人で認知症のご利用者を見守ることになり、職員の身体的精神的負担や不安が大きい。</li> <li>・実践している認知症ケアの取り組みが可視化しきれていない為、根拠だったケアの証明まで至っていない。</li> </ul>		

R 4 年 4 月 1 日～R 4 年 6 月 3 0 日	【機種選定・導入計画の検討】 事業所で使用している介護用ソフト「NDソフトウェアほのぼのNEXT」やタブレット端末との連動が可能なことを職員全体で共有し、入眠状況の可視化のための機器について情報を収集し、導入に向けて検討する。		
R 4 年 6 月 1 日～R 4 年 7 月 3 1 日	【導入担当者・チーム体制整備 (導入・活用・効果検証の各担当者)】 主担当者：管理者 導入・活用・効果検証担当者：管理者、副主任		
R 4 年 6 月 1 日～R 4 年 7 月 3 1 日	【実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取】 業務の負担軽減や身体的精神的不安の軽減に繋がることや、認知症ご利用者の生活リズムの改善や根拠に基づく認知症のケアに繋がることに期待している。		
R 4 年 1 2 月 1 日～R 4 年 1 2 月 3 1 日	【機器導入時期】 補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和4年12月導入予定ではあるが、交付決定通知の時期によっては導入時期を延期する。	備品購入費 見守りコミュニケーション支援バイタルビーツ	
R 4 年 1 2 月 1 日～R 5 年 3 月 3 1 日	【職員の習熟及び教育・研修計画 (マニュアル整備等)】 ・機器導入の使用方法についてのマニュアルについて誰でも同じ操作ができるように情報共有する。 ・内部研修として介護ロボットやICTに関するや認知症ケアに関するオンラインセミナーを視聴し、知識を深める。		
R 5 年 3 月 3 1 日	【導入によるケア方法の見直し予定】 事業所会議の場において、可視化された入居者の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）を分析し、業務内容や認		

	知症ケアについて検討する。		
R 5 年 3 月 3 1 日	【効果検証の実施】 事業所会議の場において、業務の効率化・職員の負担軽減・根拠ある認知症ケアについて、導入前と導入後を比較し効果検証を行う。		
R 5 年 4 月 1 日～R 7 年 3 月 3 1 日	【効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）】 効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら根拠のある認知症ケアを推進していく。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	特別養護老人ホームさくらホーム天童【事業所番号：0671601011】		
介護サービスの種類	介護福祉施設サービス	定員数	80名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名]眠り SCAN [導入時期]令和5年1月15日 [導入台数]80台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有)	施設環境としては、構造上、①ユニット入口から全居室入口に対する目視ができない。②ユニット同士が平行にレイアウトされているため、ユニット間での見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを少し感じる、おおいに感じると答えた職員は、100%。眠り SCAN 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、100%となった。以上の結果と上記の①～②から、8ユニット80床に対し、80台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
機器を導入することにより 達成する目標(機器導入の 翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCAN 80台導入) ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、タブレットで状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットをデータで検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCAN の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCAN 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	---

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和 4 年 8 月 1 日～ 令和 4 年 8 月 20 日	施設長、介護係長、ユニットリーダーを中心に、見守り業務の状況分析・問題点の洗い出しを実施し、機種選定・導入計画の検討。導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）の選定、実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取を実施。結果を事業計画書に反映。		施設長ほか
令和 5 年 1 月 15 日 ～令和 5 年 1 月 31 日	機器導入。開発メーカーからの取扱い説明及び職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）を実施。		機器設置者 施設長ほか
令和 5 年 2 月 1 日 ～令和 5 年 2 月 15 日	導入によるケア方法（見守り業務）の見直しを予定。		施設長ほか
令和 5 年 2 月 15 日 ～令和 5 年 2 月 28 日	1 ヶ月後での効果検証のためのアンケートを実施。実績報告。（1 年目）		施設長ほか
令和 6 年 2 月 15 日 ～令和 6 年 2 月 28 日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（2 年目）		施設長ほか
令和 7 年 2 月 15 日 ～令和 7 年 2 月 28 日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（3 年目）		施設長ほか

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	短期入所生活介護事業所さくらホーム天童 【事業所番号：0671601094】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護事業所	定員数	20名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名]眠り SCAN [導入時期]令和5年1月15日 [導入台数]20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有)	<p>施設環境としては、構造上、①ユニット入口から全居室入口に対する目視ができない。②ユニット同士が平行にレイアウトされているため、ユニット間での見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを少し感じる、おおいに感じると答えた職員は、100%。眠り SCAN 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、100%となった。以上の結果と上記の①～②から、2ユニット20床に対し、20台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCAN 20台導入)</p> <p>○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ</p> <p>○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ</p>		
期待される効果等	<p>○導入後(翌年)1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、タブレットで状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットをデータで検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。</p> <p>○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。</p> <p>○3年目 眠り SCAN の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。</p>		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCAN 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	---

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和 4 年 8 月 1 日～ 令和 4 年 8 月 20 日	施設長、介護係長、ユニットリーダーを中心に、見守り業務の状況分析・問題点の洗い出しを実施し、機種選定・導入計画の検討。導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）の選定、実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取を実施。結果を事業計画書に反映。		施設長ほか
令和 5 年 1 月 15 日 ～令和 5 年 1 月 31 日	機器導入。開発メーカーからの取扱い説明及び職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）を実施。		機器設置者 施設長ほか
令和 5 年 2 月 1 日 ～令和 5 年 2 月 15 日	導入によるケア方法（見守り業務）の見直しを予定。		施設長ほか
令和 5 年 2 月 15 日 ～令和 5 年 2 月 28 日	1 ヶ月後での効果検証のためのアンケートを実施。 実績報告。（1 年目）		施設長ほか
令和 6 年 2 月 15 日 ～令和 6 年 2 月 28 日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（2 年目）		施設長ほか
令和 7 年 2 月 15 日 ～令和 7 年 2 月 28 日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（3 年目）		施設長ほか



## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人羽黒百寿会		
事業所名	特別養護老人ホームかみじ荘 【事業所番号:0673000337】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	50名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife (カメラセンサー、生体センサー)</li> <li>・モバイル端末 (富士通 arrows BZ02)</li> </ul> <p>※設定料及び関連工事費含む</p> <p>[導入時期]令和4年12月1日</p> <p>[導入台数] IRセンサーユニット (生体センサー含む) 5台、スマートフォン 15台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、職員2名で夜勤を行っている。各棟の職員が連携し業務にあたっているが、2か所以上で同時にナースコール着信があった際、優先する順番の判断が難しく、判断がつかず結果として、入所者の転倒や事故につながっている。</li> <li>・必要台数は、これまでの事故報告及び入所者の状況を考慮すると、両棟合わせて IRセンサーユニット及び生体センサーユニット5台ずつ導入が妥当と考える。併せてスマートフォンをシフト勤務職員数も考慮し15台導入することで、入所者に対する安全性の向上を目指したい。ただし、必要があれば台数増も検討していく。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法について介護現場の職員全員が熟知し、入所者に対する安全性を向上させる。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入したことで得られた安全性の向上結果を検証しながら、いかに入所者の為に活かしていくかを検討し、サービスの質も向上させる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の活用方法について職員一人一人が思案し開発することで、さらなる安全性及びサービスの質の向上を図っていく。</li> </ul>		
期待される効果等	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の入所者の転倒等の事故の減少</li> <li>・カメラによる様子の把握により、訪室回数を削減することでの夜勤担当職員の負担軽減</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法を熟知することで、複数同時にナースコールがあった際の状況を把握できることで、夜勤担当職員の負担の軽減</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤担当職員の負担軽減による、離職者の低減及び入所者への安全性・サービスの質の向上</li> </ul>		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入前後の夜間の転倒等の事故報告及びヒヤリハット件数を比較することで、効果を検証する。介護現場の職員に、導入機器に対する満足度等についてアンケートを用いて調査する。</li> </ul>		

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和4年4月1日～ 令和4年6月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人羽黒百寿会総務部総務課長 鱸（スギ）を中心に特別養護老人ホームかみじ荘（以下「特養」という。）の運営を担う入所介護部入所介護部長 寒河江、入所課長 今井、特養課長 菅原、総務部事務係長 山口が、特養における介護ロボット機器導入に向けた検討を進める。</li> <li>・ 介護現場で働く職員に対して、問題点や要望（導入機器や環境等の希望）を聴取する。</li> </ul>		
令和4年7月1日～ 令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場職員からの要望に沿う機器を導入する為、取引業者に相談の上、機種を選定・導入時期及び環境の整備時期についての計画を検討する。</li> <li>・ 機種を選定については、実際に使用する職員（介護士、看護師）からの意見も取り入れる。</li> <li>・ 導入する機器を「自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife」とする。理由として、居室ベッドごとの見守りが可能で、機能も個人情報に配慮されたプライバシー保護映像である為。</li> </ul>		
令和4年10月1日～ 令和5年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入機器を実際に使用する職員に対する使用方法についての研修計画を検討する。</li> <li>・ 選定した介護ロボット機器の導入と必要となる環境整備の為の工事を施工する。</li> </ul>		
導入後～1年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボット機器を導入した効果の検証について、導入前後の夜間の事故報告の件数を比較し、効果を検証するとともに、介護現場の職員に対するアンケート形式での、導入機器等に関する意見や満足度、介護記録に費やす時間の増減等を把握し検証する。</li> <li>・ 介護記録の為に時間外勤務した職員の時間を導入前後で比較することで検証を進める。</li> </ul>		
導入後～ 2年目・3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年1年間で得られた検証結果を基に、さらなる職場環境及び業務改善・職員の負担軽減・入所者に対する安全性及びサービスの質の向上を目指した取組を検討し、実施に結びつける。</li> </ul>		

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人羽黒百寿会		
事業所名	ユニット型特別養護老人ホームかみじ荘【事業所番号:0670701796】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	30名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife (カメラ、生体センサー)</li> <li>・モバイル端末 (富士通 arrows BZ02)</li> </ul> <p>※設定料及び関連工事費含む</p> <p>[導入時期]令和4年12月1日</p> <p>[導入台数] IRセンサーユニット (生体センサー含む) 5台、スマートフォン 10台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、職員2名で夜勤を行っている。棟間の距離が遠い為、夜間は両棟の職員間での連携はとることが困難である。2か所以上で同時にナースコール着信があった際、優先する順番の判断が難しく、判断がつかず結果として、入居者の転倒や事故につながっている。</li> <li>・必要台数は、これまでの事故報告及び入居者の状況を考慮すると、両棟合わせて IRセンサーユニット及び生体センサーユニット5台ずつ導入が妥当と考える。併せてスマートフォンをシフト勤務職員数も考慮し10台導入することで、入居者に対する安全性の向上を目指したい。ただし、必要があれば台数増も検討していく。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法について介護現場の職員全員が熟知し、入居者に対する安全性を向上させる。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入したことで得られた安全性の向上結果を検証しながら、いかに入居者の為に活かしていくかを検討し、サービスの質も向上させる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の活用方法について職員一人一人が思索し開発することで、さらなる安全性及びサービスの質の向上を図っていく。</li> </ul>		
期待される効果等	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の入居者の転倒等の事故の減少</li> <li>・カメラによる様子の把握により、訪室回数を削減することでの夜勤担当職員の負担軽減</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法を熟知することで、複数同時にナースコールがあった際の状況を把握できることで、夜勤担当職員の負担の軽減</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤担当職員の負担軽減による、離職者の低減及び入居者への安全性・サービスの質の向上</li> </ul>		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入前後の夜間の転倒等の事故報告及びヒヤリハット件数を比較することで、効果を検証する。介護現場の職員に、導入機器に対する満足度等についてアンケートを用いて調査する。</li> </ul>		

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和4年4月1日～ 令和4年6月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人羽黒百寿会総務部総務課長 鱸（スギ）を中心にユニット型特別養護老人ホームかみじ荘（以下「ユニット特養」という。）の運営を担う入所介護部入所介護部長 寒河江、入所課長 今井、ユニット主幹 高橋、総務部事務係長 山口が、ユニット特養における介護ロボット機器導入に向けた検討を進める。</li> <li>・介護現場で働く職員に対して、問題点や要望（導入機器や環境等の希望）を聴取する。</li> </ul>		
令和4年7月1日～ 令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場職員からの要望に沿う機器を導入する為、取引業者に相談の上、機種を選定・導入時期及び環境の整備時期についての計画を検討する。</li> <li>・機種を選定については、実際に使用する職員（介護士、看護師）からの意見も取り入れる。</li> <li>・導入する機器を「自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife」とする。理由として、居室ベッドごとの見守りが可能で、機能も個人情報に配慮されたプライバシー保護映像である為。</li> </ul>		
令和4年10月1日～ 令和5年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器を実際に使用する職員に対する使用方法についての研修計画を検討する。</li> <li>・選定した介護ロボット機器の導入と必要となる環境整備の為の工事を施工する。</li> </ul>		
導入後～1年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット機器を導入した効果の検証について、導入前後の夜間の事故報告の件数を比較し、効果を検証するとともに、介護現場の職員に対するアンケート形式での、導入機器等に関する意見や満足度、介護記録に費やす時間の増減等を把握し検証する。</li> <li>・介護記録の為に時間外勤務した職員の時間を導入前後で比較することで検証を進める。</li> </ul>		
導入後～ 2年目・3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年1年間で得られた検証結果を基に、さらなる職場環境及び業務改善・職員の負担軽減・入居者に対する安全性及びサービスの質の向上を目指した取組を検討し、実施に結びつける。</li> </ul>		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人羽黒百寿会		
事業所名	短期入所生活介護事業所かみじ荘【事業所番号：0670701523】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	16名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife (カメラセンサー、生体センサー)</li> <li>・モバイル端末 (富士通 arrows BZ02)</li> </ul> <p>※設定料及び関連工事費含む</p> <p>[導入時期] 令和4年12月1日</p> <p>[導入台数] IRセンサーユニット (生体センサー含む) 5台、スマートフォン5台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、職員1名のみで夜勤を行っている。複数同時にナースコール着信があった際、優先する順番の判断が難しく、判断がつかず結果として、入所者の転倒や事故につながっている。</li> <li>・必要台数は、これまでの事故報告及び入所者の状況を考慮すると、両棟合わせてIRセンサーユニット及び生体センサーユニット5台ずつ導入が妥当と考える。併せてスマートフォンをシフト勤務職員数も考慮し5台導入することで、入所者に対する安全性の向上を目指したい。ただし、必要があれば台数増も検討していく。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法について介護現場の職員全員が熟知し、入所者に対する安全性を向上させる。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入したことで得られた安全性の向上結果を検証しながら、いかに入所者の為に活かしていくかを検討し、サービスの質も向上させる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の活用方法について職員一人一人が思案し開発することで、さらなる安全性及びサービスの質の向上を図っていく。</li> </ul>		
期待される効果等	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の入所者の転倒等の事故の減少</li> <li>・カメラによる様子の把握により、訪室回数を削減することでの夜勤担当職員の負担軽減</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法を熟知することで、複数同時にナースコールがあった際の状況を把握できることで、夜勤担当職員の負担の軽減</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤担当職員の負担軽減による、離職者の低減及び入所者への安全性・サービスの質の向上</li> </ul>		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入前後の夜間の転倒等の事故報告及びヒヤリハット件数を比較することで、効果を検証する。介護現場の職員に、導入機器に対する満足度等についてアンケートを用いて調査する。</li> </ul>		

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和4年4月1日～ 令和4年6月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人羽黒百寿会総務部総務課長 鱸（スギ）を中心に短期入所生活介護事業所 かみじ荘（以下「短期入所」という。）の運営を担う入所介護部入所介護部長 小林、入所課長 今井、特養課長 菅原、総務部事務係長 山口が、短期入所における介護ロボット機器導入に向けた検討を進める。</li> <li>・ 介護現場で働く職員に対して、問題点や要望（導入機器や環境等の希望）を聴取する。</li> </ul>		
令和4年7月1日～ 令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場職員からの要望に沿う機器を導入する為、取引業者に相談の上、機種を選定・導入時期及び環境の整備時期についての計画を検討する。</li> <li>・ 機種を選定については、実際に使用する職員（介護士、看護師）からの意見も取り入れる。</li> <li>・ 導入する機器を「自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife」とする。理由として、居室ベッドごとの見守りが可能で、機能も個人情報に配慮されたプライバシー保護映像である為。</li> </ul>		
令和4年10月1日～ 令和5年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入機器を実際に使用する職員に対する使用方法についての研修計画を検討する。</li> <li>・ 選定した介護ロボット機器の導入と必要となる環境整備の為の工事を施工する。</li> </ul>		
導入後～1年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボット機器を導入した効果の検証について、導入前後の夜間の事故報告の件数を比較し、効果を検証するとともに、介護現場の職員に対するアンケート形式での、導入機器等に関する意見や満足度、介護記録に費やす時間の増減等を把握し検証する。</li> <li>・ 介護記録の為に時間外勤務した職員の時間を導入前後で比較することで検証を進める。</li> </ul>		
導入後～ 2年目・3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年1年間で得られた検証結果を基に、さらなる職場環境及び業務改善・職員の負担軽減・入所者に対する安全性及びサービスの質の向上を目指した取組を検討し、実施に結びつける。</li> </ul>		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人羽黒百寿会		
事業所名	ユニット型短期入所生活介護事業所かみじ荘【事業所番号：0670701531】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	10名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife (カメラセンサー、生体センサー)</li> <li>・パイル端末 (富士通 arrows BZ02)</li> </ul> <p>※設定料及び関連工事費含む</p> <p>[導入時期]令和4年12月1日</p> <p>[導入台数] IRセンサーユニット (生体センサー含む) 5台、スマートフォン5台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、職員1名で夜勤を行っている。複数同時にナースコール着信があった際、優先する順番の判断が難しく、判断がつかず結果として、入居者の転倒や事故につながっている。</li> <li>・必要台数は、これまでの事故報告及び入居者の状況を考慮すると、両棟合わせてIRセンサーユニット及び生体センサーユニット5台ずつ導入が妥当と考える。併せてスマートフォンをシフト勤務職員数も考慮し5台導入することで、入居者に対する安全性の向上を目指したい。ただし、必要があれば台数増も検討していく。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法について介護現場の職員全員が熟知し、入居者に対する安全性を向上させる。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入したことで得られた安全性の向上結果を検証しながら、いかに入居者の為に活かしていくかを検討し、サービスの質も向上させる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の活用方法について職員一人一人が思案し開発することで、さらなる安全性及びサービスの質の向上を図っていく。</li> </ul>		
期待される効果等	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の入居者の転倒等の事故の減少</li> <li>・カメラによる様子の把握により、訪室回数を削減することでの夜勤担当職員の負担軽減</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器の使用方法を熟知することで、複数同時にナースコールがあった際の状況を把握できることで、夜勤担当職員の負担の軽減</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤担当職員の負担軽減による、離職者の低減及び入居者への安全性・サービスの質の向上</li> </ul>		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入前後の夜間の転倒等の事故報告及びヒヤリハット件数を比較することで、効果を検証する。介護現場の職員に、導入機器に対する満足度等についてアンケートを用いて調査する。</li> </ul>		

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和4年4月1日～ 令和4年6月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人羽黒百寿会総務部総務課長 鱸（スズキ）を中心にユニット型短期入所生活介護事業所かみじ荘（以下「ユニット短期」という。）の運営を担う入所介護部入所介護部長 小林、入所課長 今井、ユニット課長 伊藤、総務部事務係長 山口が、ユニット短期における介護ロボット機器導入に向けた検討を進める。</li> <li>・介護現場で働く職員に対して、問題点や要望（導入機器や環境等の希望）を聴取する。</li> </ul>		
令和4年7月1日～ 令和4年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場職員からの要望に沿う機器を導入する為、取引業者に相談の上、機種を選定・導入時期及び環境の整備時期についての計画を検討する。</li> <li>・機種を選定については、実際に使用する職員（介護士、看護師）からの意見も取り入れる。</li> <li>・導入する機器を「自立支援型見守りロボット A.I.Viewlife」とする。理由として、居室ベッドごとの見守りが可能で、機能も個人情報に配慮されたプライバシー保護映像である為。</li> </ul>		
令和4年10月1日～ 令和5年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入機器を実際に使用する職員に対する使用方法についての研修計画を検討する。</li> <li>・選定した介護ロボット機器の導入と必要となる環境整備の為の工事を施工する。</li> </ul>		
導入後～1年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット機器を導入した効果の検証について、導入前後の夜間の事故報告の件数を比較し、効果を検証するとともに、介護現場の職員に対するアンケート形式での、導入機器等に関する意見や満足度、介護記録に費やす時間の増減等を把握し検証する。</li> <li>・介護記録の為に時間外勤務した職員の時間を導入前後で比較することで検証を進める。</li> </ul>		
導入後～ 2年目・3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年1年間で得られた検証結果を基に、さらなる職場環境及び業務改善・職員の負担軽減・入居者に対する安全性及びサービスの質の向上を目指した取組を検討し、実施に結びつける。</li> </ul>		



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 一幸会		
事業所名	介護老人福祉施設 池幸園	【事業所番号：0670700392】	
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	80名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【製品名】 パラマウントベッド 3モーター電動ベッド エスパシア (KA-N15711R 離床キャッチ付き、樹脂ボード) ナースコール中継ユニット NU-1 ユニティーネットワーク インターフェースボックス (ナースコールへ連動させるために必要) 【導入時期】 令和5年3月頃 【導入台数】各80台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p><b>【現在の問題点】</b></p> <p>従来の見守りセンサーは配線が多く引っかけでの事故や故障、電源スイッチの入れ忘れ、センサー機器の取り付け位置の検討が必要などの種々の問題があったが、ベッドに見守りセンサー内蔵となる事でこれらの問題が軽減される可能性が高い。</p> <p>見守りのセンサーの多くは経年劣化してきており、頻繁に修理が必要となっている。これまで見守りセンサーを修理に出す際は、センサーを使用できない期間が生じ、事故発生のリスクが上がることから、頻回な訪室を必要とすることもあり、職員の移動の身体的、また事故への心理的負担が一時的に増大することがあった。今回ベッド内蔵のセンサーを導入することでメーカー側より単体のセンサーよりもベッド内蔵とすることで耐久性が上がり、見込まれる修理頻度は軽減すると見解を頂いている。</p> <p>利用者の心身状況により必要な見守りセンサーの台数は増減し、不足することも度々あった。見守りセンサーの台数が充足することは職員の心身の負担軽減にもつながり、職員の負担軽減は利用者へのサービスの質の向上へもつながる好循環が生まれると予測される。</p> <p>従来の単体のセンサーは寝返り等で誤報も多かったがベッド内蔵センサーは精度の面でも改善が見込まれている。</p> <p><b>【導入台数の妥当性】</b></p> <p>全台にセンサーを内蔵することで、必要な方へのベッド移動等の手間が省け、操作リモコンが統一されるため、職員の機器に対する慣れが早くなること、混乱が少なく済むことが想定される。</p> <p>また見守りセンサー不足の可能性が大幅に減ることは、職員の心身負担の軽減にも大きく貢献する。</p> <p><b>【職員と導入意義の共有】</b></p> <p>毎日ベッド操作等を行なっている職員から不具合の連絡を度々受けており、修理の種類によっては都度対応が難しいことがあり、ベッドの使用に関して不安を持ったまま対応している現状がある。そのためベッドの入れ替えは職員からも要望があり、利用者の安全のためにも入れ替えが必要と共有認識を持っている。</p> <p>またセンサー内蔵における耐久性の向上や配線の数、距離を減らせること、見守りセンサーが不足することへの負担が軽減する可能性があることも導入の意義として共有している。</p>		

機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目 ベッドの操作に慣れる。</p> <p>○2年目 異動、新入職員に対し、操作方法の説明ができる。</p> <p>○3年目 ベッド内蔵センサーを利用者に合わせ設定ができる。</p>
期待される効果等	<p>○導入後(翌年)1年目 センサーがベッド内蔵のため単体センサーのような必要な場所への移設の手間が省ける。 ベッド内蔵センサーで耐久性、精度が向上することで職員の負担軽減、利用者のサービスの質の向上が見込まれる。</p> <p>○2年目 1年目の効果の継続が見込まれる。</p> <p>○3年目 1～2年目の効果の継続が見込まれる。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<p>機器移設、配線、配置、電源スイッチの入り切り問題等の間接負担の軽減(物理的に確実にこの効果は見込まれる)</p> <p>センサーと発生事故の関連性が認められる事例の導入前後の比較を実施する。</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
現在	問題点の洗い出し、導入機種、導入担当者決定済		
～4年12月31日	法人理事会にて導入業者選定方法と入札執行申請 導入業者選定の入札執行 機器導入 使用方法の説明、周知 ベッド内蔵センサーを活用する利用者の選定	見守り機器導入	補助金交付決定後より
機器導入後 ～8年3月31日	導入前後のセンサーが関連する事故の比較を実施する。 (事故防止及び身体拘束委員会協力にて) ベッド修理に係る費用の検証		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレホーム天童【事業所番号：0671600823】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護事業所	定員数	27名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN eye [導入時期] 令和4年12月1日 [導入台数] 眠り SCAN eye(5台)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室内に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時「眠り SCAN 眠り SCAN eye」で対応してまいります。当施設で「平成29年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。数年前に5台「眠り SCAN eye」を導入しました。スタッフからは「不用意な訪室の階数が減った。」とか「夜勤時に不穏要素のある利用者さんの室内での状況が分かり安心」等の声が上がっており、「眠り SCAN eye」の更なる増台の希望が上がっております。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事です。その際、スタッフの心身の負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN eye」を導入できれば、万が一当施設でも利用者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を併用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p>		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠りSCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。</p> <p>また、当施設は弊社グループ施設の中でも先立って「眠りSCAN」を導入させて頂き、スタッフの「眠りSCAN」使用に関して熟練度が増してきているようです。データを利用しての健康管理やケアの質の向上にも成果が見られ、社内の「研究発表会」と言う場の中でも「眠りSCAN、眠りSCAN eye」を使った題材で研究を進めており、導入前の予想以上の成果が見られております。</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2017 年 11 月～	「平成 29 年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使用して「眠り SCAN」導入。（14 台）		
2020 年 10 月 1 日～	弊社グループ内施設、「眠り SCAN」ユーザー施設の勉強会（情報交換会）発足。		
2020 年 12 月 1 日	「眠り SCAN eye」の導入（5 台）		
2018 年 5 月 1 日～ 2022 年 8 月 1 日	「眠り SCAN」の増台。3～5 台程度を数回にわたって購入。現在は全床設置済み。		
2021 年 1 月 1 日～	スタッフから「眠り SCAN eye」の増台の要望		
2022 年 8 月 1 日 ～ 2022 年 8 月 29 日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2022 年 12 月 1 日～	交付決定後、すぐに発注。（予定）		
2023 年 1 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	スタッフへアンケート調査(予定)		
2022 年 12 月 1 日 ～	「眠り SCAN」勉強会への参加。(予定)(以前導入している眠り SCAN ユーザー施設が集まり、運用方法と情報交換会を定期的に行っているの で、その勉強会に参加)		

#### ※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2021 年 4 月 1 日～	夜勤時不穏要素のある入居者対応の問題検証。		
2021 年 10 月 1 日～	見守りロボットの検討開始と機種選定。		
2021 年 10 月 1 日	社内他施設で使用している「眠り SCAN」の見学と説明会。		
2021 年 6 月 1 日～ 2021 年 6 月 15 日	「眠り SCAN」デモ機を借りて試験利用。		
2021 年 6 月 20 日	スタッフへ聞き取りして機種決定。「眠り SCAN」参考見積を取る。		
2022 年 8 月 1 日～ 2022 年 8 月 29 日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2022 年 12 月 1 日～	交付決定後、すぐに発注。（予定）		
2023 年 1 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	スタッフへアンケート調査(予定)		
2023 年 1 月 1 日～	「眠り SCAN」勉強会への参加。（予定） （以前導入している眠り SCAN ユーザー施設が集まり、運用方法と情報交換会を定期的に行っているのので、その勉強会に参加）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ江俣【事業所番号：0670101393】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護事業所	定員数	15名
〔 介護ロボットの製品名〕 〔 通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] 眠り SCAN eye、PC ThinkCentre M70s</p> <p>[導入時期] 令和4年12月1日</p> <p>[導入台数] 眠り SCAN eye(1台)、PC(1台)</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室内に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。そのような利用者には就寝時「眠り SCAN」で対応しているが「眠り SCAN eye」を導入できれば室内の状況も事前に分かり、訪室の必要性の判断も出来、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、当施設で「平成29年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を導入させて頂きました。現在スタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜勤のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、弊社他施設で導入している「眠り SCAN eye」の使用状況と有効性をみて当施設スタッフからも「眠り SCAN eye」導入希望の声も上がっており、先ずは導入のきっかけとして今回1台導入していきたいと思っております。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事です。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN eye」を導入して、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を併用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p> <p>また、現在「眠り SCAN」の運用をノート PCで行っているが、台数も増えているために PC の容量やスペックに問題があり、度々エラーを起しております。今回「眠り SCAN eye」導入でノート PCでは容量とスペックに問題があり、現在使用しているノート PCより高スペックで容量の大きなものに入替していきたい。</p>		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠りSCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。</p> <p>また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行ってきたい。</p>



### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	経費概要	備考
2017 年 11 月～	「平成 29 年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使用して「眠り SCAN」導入。(14 台)		
2020 年 10 月 1 日～	弊社グループ内施設、「眠り SCAN」ユーザー施設の勉強会 (情報交換会) 発足。		
2020 年 12 月 1 日～ 2022 年 8 月 1 日	「眠り SCAN」の増台。3～5 台程度を数回にわたって購入。現在は全床設置済み。		
2019 年 6 月 1 日	「眠り SCAN eye」デモ機を借りて試験利用。		
2019 年 6 月 20 日～	スタッフへ聞き取りして機種決定。「眠り SCAN eye」参考見積を取る。		
2022 年 8 月 1 日 ～ 2022 年 8 月 29 日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2022 年 12 月 1 日～	交付決定後、すぐに発注。(予定)		
2023 年 1 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日	スタッフへアンケート調査(予定)		
2022 年 12 月 1 日 ～	「眠り SCAN」勉強会への参加。(予定)(以前導入している眠り SCAN ユーザー施設が集まり、運用方法と情報交換会を定期的に行っているの で、その勉強会に参加)		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備 (導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者 (介護職員等) の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画 (マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討 (実績報告から 3 年目までの取組)

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人歆友会		
事業所名	小規模特別養護老人ホーム東部の郷 【事業所番号：0690100557】		
介護サービスの種類	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	定員数	29名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] パラマウントベッド エスパシアシリーズ 離床 CATCH</p> <p>[導入時期] 令和4年12月 日 [導入台数] 3台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>現在は赤外線センサーにて、転倒・転落事故に対する対策を行っているが、センサーを設置する位置を考慮しないと誤報と不検知が起きてしまい、職員の負担となるケースが見られる。3ユニットあるので、各ユニットに1台ずつベッド内蔵荷重センサーを導入することで安全性の向上が期待でき、ベッド1台で利用者の状態に合わせて様々な検知が可能になること、通知したいタイミングに合わせて設定が可能になり、職員の負担の軽減が図れると判断しました。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目 ベッドより転倒・転落する可能性の高い利用者を使用する。利用者の起き上がりや離床を正しく検知する事で、事故のリスクが減少する。</p> <p>○2年目 介護ロボット導入に伴う職員研修やマニュアル作成によって、機器操作に習熟できるよう環境を整える。</p> <p>○3年目 使用する事により、事故リスクの軽減や職員の介護負担の軽減に繋がり、介護サービスの質の向上を図る。</p>		
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 センサーにより利用者の行動を把握する事によって、転倒・転落等のリスクを事前に発見し軽減する事ができる。</p> <p>○2年目 利用者が安心・安全に生活できる環境が整えられる。</p> <p>○3年目 職員の負担を軽減させる事によって、職場環境の改善ができる。</p>		
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<p>使用する利用者に関しては、毎月の月末評価（モニタリング）で評価する。</p>		

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
R4年 4月 日 ～ 年 月 日	赤外線センサーで対応しているが、設置する位置を考慮しないと誤報と不検知が起きてしまい、職員の負担となっている。		
R4年 5月 日 ～ 年 月 日	3ユニットあるので、各ユニットに1台ずつベッド内蔵荷重センサーを導入する事で安全性の向上が期待できるのではないかと検討。		
R4年 5月 日 ～ 年 月 日	ベッド1台で様々な検知と、通知したいタイミングに合わせて設定が可能になり職員の介護負担の軽減が図れる機種を選定の実施。		
R4年 6月 日 ～ 年 月 日	相談員・ユニットリーダー・PTを中心としてチーム体制を整備する。		
R4年 7月 8日 ～R4年 7月19日	デモ機をレンタル。利用者と職員に実際に使用してもらい、良い点・悪い点を評価し意見聴取する。		
R4年 8月 日 ～ 年 月 日	補助金申請。		
R4年 12月 日 ～ 年 月 日	パラマウントベッド エスパシア シリーズ 離床 CATCH 導入		
R5年 1月 日 ～ 年 月 日	事業所内で介護ロボットに係る職員研修の計画と実施。		
R5年 1月 日 ～ 年 月 日	毎月の月末評価（モニタリング）で評価するため、必要に応じてケアの見直しが期待できる。		
	利用者が安心・安全に生活できる環境が整えられる。		
年 月 日 ～R8年12月 日	事故リスクの軽減や職員の介護負担の軽減に繋がり、介護サービスの質の向上を図る。		

#### ※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 天童福祉厚生会		
事業所名	特別養護老人ホーム清幸園【事業所番号：0671600203】		
介護サービスの種類	介護福祉施設	定員数	80
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] ジーコムココヘルパNシステムソフトウェア用 マットセンサー・ベッドセンサー追加購入 [導入時期] 令和5年1月 [導入台数] 14台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	令和元年にジーコムココヘルパNシステムソフトウェアを導入しており、マットセンサー21台及びベッドセンサー27台を入所者の居室移動に合わせて設定を変えながら使用している。居室の移動がある場合は、Wi-Fiの受信、居室名の設定等、その都度再設定が必要で介護従事者の負担となっている。マットセンサー・ベッドセンサーの台数を増やし、すぐ使用できる状態で保管し、入所者の見守りの強化と介護従事者の負担軽減を図りたい。		
機器を導入することにより 達成する目標(機器導入 の翌年から3年間、年度 毎)	○導入後(翌年)1年目 複数の介護従事者へ同時に情報共有することができる。 要介護者がベッドから離れようとしている状態又は離れたことを検知し、介護従事者へ通報できる。 ○2年目 入所者に合ったものをすぐ使用でき介護従事者の負担軽減を図る ○3年目 入所者に合ったものをすぐ使用でき介護従事者の負担軽減を図る		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 ヒヤリハットの減少、介護事故数の減少 ○2年目 ヒヤリハットの減少、介護事故数の減少 ○3年目 ヒヤリハットの減少、介護事故数の減少		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	介護従事者の満足度 ヒヤリハット、介護事故数の減少		

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和4年12月1日 ～令和4年12月31日	業務の状況、問題点の洗い出し		
令和4年12月1日 ～令和4年12月31日	導入・活用・効果検証の担当者の整備 介護従事者等の意見聴取		
令和4年12月1日 ～令和4年12月31日	機種選定・導入計画の検討		
令和5年1月	機器導入	マットセンサー 8 台 ベッドセンサー 6 台	
令和5年1月	マニュアル整備 導入後のケア方法の見直し		
令和5年3月1日 ～令和5年3月31日	介護従事者の満足度調査 ヒヤリハット報告書、介護事故報告書 の分類集計 効果検証の結果に基づいた業務改善の 取組検討		
令和5年3月1日 ～令和5年3月31日	ヒヤリハット報告書、介護事故報告書 の分類集計 効果検証の結果に基づいた業務改善の 取組検討		
令和5年3月1日 ～令和5年3月31日	ヒヤリハット報告書、介護事故報告書 の分類集計 効果検証の結果に基づいた業務改善の 取組検討		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	特別養護老人ホームみずほの里		
事業所名	指定短期入所生活介護所みずほの里 【事業所番号：0671 300176】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	20名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN 及び管理用ノートパソコン  [導入時期] 令和4年12月15日 [導入台数] 5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイを受け入れる際、利用者の生活パターンがわかりにくく、入所初期の転倒事故が発生しやすくなっている。このことで職員の新規利用者受け入れに対する精神的負担が大きくなっている。</li> <li>・新規のご利用者は、入眠状況が把握出来ていないため、不要な夜間の巡視による訪室が発生し睡眠の妨げとなることがある。</li> <li>・新規利用者や不安な行動が見られる利用者に眠り SCAN を使用し、ナースコールとの併用で夜勤職員が管理できるのは5台と見込んでいる。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<input type="radio"/> 導入後 (翌年) 1年目 使用方法と機器の特徴を理解する  <input type="radio"/> 2年目 取得したデータで訪室パターンを見直す 睡眠状態を把握し日中の関わり方を分析する  <input type="radio"/> 3年目 改善した業務を振り返り、新たな改善点を見出す		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後 (翌年) 1年目 事故発生時の原因究明に活用ができ、転倒事故の減少が期待される。  <input type="radio"/> 2年目 データ収集により、ご利用者への日中の関わり方が確立され、夜間の睡眠の質の向上が見込まれる。 職員の不要な巡視が減少することで、身体的な負担も軽減される。  <input type="radio"/> 3年目 職員の身体的・精神的負担の軽減により、労働環境の改善が見込まれる。		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど 他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等 ・事故件数の比較 ・職員のアンケート調査(訪室回数、精神的負担、身体的負担、利用者様の状況等)
------------------------------------	--

### 3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内 容	経費概要	備考
年 月 日 ～ 年 月 日	介護ロボット検討委員会 業務の状況分析・導入計画の 検討		
令和4年12月	発注・納品・機器説明会(担 当者の決定)		
令和5年1月	運用開始		
令和5年3月	使用職員アンケート実施		
令和5年3月末	職員アンケートの集計と検証		
令和6年3月	使用職員アンケート実施		
令和6年3月末	職員アンケートの集計と検証		
令和7年3月	使用職員アンケート実施		
令和7年3月末	職員アンケートの集計と検証		
毎月一回実施	介護ロボット検討委員会にて 運用状況の確認と活用方法の 検討を行う		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 <sup>豊岡</sup> 済生会支部山形県済生会		
事業所名	特別養護老人ホーム山静寿 【事業所番号：0670103282】		
介護サービスの種類	特別養護老人ホーム	定員数	100
〔 介護ロボットの製品名〕 〔 通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] 眠り SCAN/NN-1520 10台 モバイル端末/KX-Z817/arrows BZ02 (Android 端末) 5台 [導入時期] 令和5年2月導入予定 [導入台数]</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>・当施設はユニット型の特養であり、夜間20名の入居者様を1名の介護職員で対応しているが、夜間不穏になる入居者様が複数名おり、対応に精神的・身体的な負担がかかっている。</p> <p>眠り SCAN の導入により、入居者様のベッド上での状況データを活用し、生活状況の可視化や入居者様一人ひとりの睡眠状況を把握する事で、夜間時のケアを目が覚めているタイミングで提供を行う等、入居者様ごとに日中、夜間に適したケアを行うとともに、データでの職員間の情報共有を可能とする事で、入居者様の生活リズムの改善、職員の負担軽減による労務環境の改善につなげていきたい。</p> <p>7月にメーカーよりプレゼンと約2週間のデモを行い、介護職員のアンケートからも入居者様の生活リズムや夜間の睡眠状況を把握して日中の対応に活かして夜間の良眠につなげ夜勤介護職員の負担を減らしたいとのいと要望があり、現状夜間不穏になる入居者様が10人程いる事から10台の導入と眠り SCANからのリアルタイムでの状況の通知をユニットのどこでも受信するためのモバイル端末5台(各ユニット1台)の導入を行いたい。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り業務の負担軽減</li> <li>・眠り SCAN 導入ベッド転倒・転落事故件数低減</li> <li>・入居者様の生活リズムの改善</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り業務の負担軽減</li> <li>・眠り SCAN 導入ベッド転倒・転落事故件数低減</li> <li>・入居者様の生活リズムの改善</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り業務の負担軽減</li> <li>・眠り SCAN 導入ベッド転倒・転落事故件数低減</li> <li>・入居者様の生活リズムの改善</li> </ul>		



<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の生活リズムの確認、夜間の睡眠状況のデータの活用を行い、日中・夜間のケアを見直す事で、入居者様の睡眠の質を向上させる効果が期待でき、介護職員への負担の軽減にもつながる</li> <li>・眠り SCAN 導入ベッドの転倒・転落事故の防止</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の生活リズムの確認、夜間の睡眠状況のデータの活用を行い、日中・夜間のケアを見直す事で、入居者様の睡眠の質を向上させる効果が期待でき、介護職員への負担の軽減にもつながる</li> <li>・眠り SCAN 導入ベッドの転倒・転落事故の防止</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の生活リズムの確認、夜間の睡眠状況のデータの活用を行い、日中・夜間のケアを見直す事で、入居者様の睡眠の質を向上させる効果が期待でき、介護職員への負担の軽減にもつながる</li> <li>・眠り SCAN 導入ベッドの転倒・転落事故の防止</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・眠り SCAN 導入ベッドの転倒・転落事故件数の調査</li> <li>・介護職員への満足度調査（入所者様の生活リズムの改善、介護職員の負担軽減の効果等）</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
<p>令和4年6月27日～ 令和4年7月10日</p>	<p>ア. 夜間不穏な入居者様が増えており、夜勤時の介護職員の負担となっている問題点及び改善の要望を確認。</p>		
<p>令和4年7月15日～ 令和4年8月9日</p>	<p>イ・エ. 上記問題点改善の為、職員・業者と検討やデモンストラーション・デモ・職員へのアンケートを行い、導入を決定するとともに、見守り支援システム（眠り SCAN）及びモバイル端末を選定する。</p>		
<p>令和4年8月10日～ 令和4年8月17日</p>	<p>ウ. 導入・活用・効果検証については主任介護職員・副主任介護職員を中心に介護職員協同で行っていく。</p>		
<p>令和5年2月1日～ 令和5年2月28日</p>	<p>オ. 令和5年2月中に見守り支援システム（眠り SCAN）10台及びモバイル端末5台を整備予定。</p>	<p>眠り SCAN 10台  モバイル端末 5台</p>	

<p>令和5年2月1日～ 令和5年3月31日</p>	<p>カ.メーカーより説明会の実施及び操作マニュアルをもとに全介護職員が適正な操作方法・運用方法を習熟する。 キ.導入による入居者様の生活状況のデータを分析し、入居者様のケアの方法の検討・実施。</p>		
<p>令和5年4月1日～ 令和6年3月31日</p>	<p>導入した見守り支援システム(眠りSCAN)及びモバイル端末の運用 キ.導入による入居者様の生活状況のデータを分析し、入居者様のケアの方法の検討・実施。 ク.令和5年度の介護職員満足度調査及び転倒・転落事故件数調査の実施。 ケ.介護職員満足度調査及び転倒・転落事故件数調査による入居者様の生活改善状況・介護職員の負担軽減状況、転倒・転落事故件数を確認し、今年度の課題の抽出、改善方法を検討・実施。</p>		
<p>令和6年4月1日～ 令和7年3月31日</p>	<p>導入した見守り支援システム(眠りSCAN)及びモバイル端末の運用 キ.導入による入居者様の生活状況のデータを分析し、入居者様のケアの方法の検討・実施。 ク.令和6年度の介護職員満足度調査及び転倒・転落事故件数調査の実施。 ケ.介護職員満足度調査及び転倒・転落事故件数調査による入居者様の生活改善状況・介護職員の負担軽減状況、転倒・転落事故件数を確認し、今年度の課題の抽出、改善方法を検討・実施。</p>		
<p>令和7年4月1日～ 令和8年3月31日</p>	<p>導入した見守り支援システム(眠りSCAN)及びモバイル端末の運用 キ.導入による入居者様の生活状況のデータを分析し、入居者様のケアの方法の検討・実施。 ク.令和7年度の介護職員満足度調査及び転倒・転落事故件数調査の実</p>		

	施。 ケ.介護職員満足度調査及び転倒・転落事故件数調査による入居者様の生活改善状況・介護職員の負担軽減状況、転倒・転落事故件数を確認し、今年度の課題の抽出、改善方法を検討・実施。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 河北福祉会		
事業所名	特別養護老人ホーム 眺葉園【事業 0672300605】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	40
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] ベッドセンサーシステムベーシック [導入時期] 令和 4年 12月 1日 [導入台数] 5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>2022年6月に、センサーのデモを実施し、ベッド下に設置するセンサーの為、利用者がセンサーを避けてしまうなどのリスクがなくなり当施設での有効活用ができると職員と共有した。</p> <p>現在、夜勤時2名の職員が40名の利用者に対応しており夜間を含め転倒事故11件、ヒヤリハット4件の発生。(令和3年度)</p> <p>今回5台を購入し、既存センサーと合わせて、各ユニットに配置し転倒等の事故を30%削減することを目標としている。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目 転倒リスクが高く既存のセンサーでは対応できない利用者へ導入し、各職員がセンサーの使い方をマスターする。</p> <p>○2年目 アラーム履歴機能を活用し、転倒リスクが高い方の傾向を捉え、転倒事故20%削減する。</p> <p>○3年目 事故は発生防止委員会にて、センサーの使い方、有効活用例を共有し、転倒事故防止を昨年比率50%を目標とする。</p> <p>○導入後(翌年)1年目</p>		

期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 センサーの使い方（アラームの設定、体重測定、履歴の確認）を覚える事で、どのような方に適切か、どのような活用方法が良いか選定できるようにする。</p> <p>○2年目 アラーム発報機能の他、アラーム履歴機能などを活用して転倒転落防止の制度を高める。</p> <p>○3年目 事故発生防止委員会にて、各ユニットのセンサー活用方法を共有し、成功事例を基に、施設全体の事故件数の削減効果を期待。</p> <p>○導入後（翌年）1年目</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<p>例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
4年4月1日 4年4月30日	転倒原因の分析及び介護員夜間時の負担検討		
4年5月15日	ベットセンサーの導入検討、デモ実施依頼		
4年6月16日	ベッドセンサーデモ実施		
4年6月17日 ～4年6月30日	デモ参加者による意見聴取及び集約		
4年7月1日	ベットセンサーの見積もり依頼		
4年12月1日	ベッドセンサー導入(予定)		

4年12月1日 ～5年11月30日	ベッドセンサー使用方法（アラーム設定、体重測定、履歴の確認）をマスターする。		
5年12月1日 ～6年11月30日	アラーム履歴機能の活用及び傾向の分析		
6年12月1日 ～7年11月30日	事故発生防止委員会にて活用方法の共有及び施設全体での共有を図る		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 偕寿会		
事業所名	特別養護老人ホーム蓬仙園 【事業所番号：00671300150】		
介護サービスの種類	指定介護老人福祉施設	定員数	90
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN [導入時期] 令和5年2月1日 [導入台数] 20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入 リース(契約期間 年 月～ 年月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	10月からユニット型特養で全室個室になることで夜間帯勤務の介護職員が1人体制になった。不要な見回りを減らし介護職員の労力軽減と入居者の安全対策を目指す。		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 従来のセンサーと異なり、入居者の特性に応じた見守りが可能になる為、危険予知が可能となる。介護職員の労力軽減と事故予防  ○2年目 睡眠から特化した、入居者の昼夜における活動把握  ○3年目 蓄積されたデータを基に、生活パターンを分析する。		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 事故削減  ○2年目 介護労力軽減  ○3年目		

	遠隔で操作することにより、効率的な見守り体制を実施することで介護職員の負担軽減と現場のサービス提供体制における介護力向上が期待される。
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等  介護職員への導入後のアンケートを記入して頂き、満足度を確認する。

### 3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内 容	経費概要
R4年5月9日 ~R4年5月31日	業務の状況分析、問題点の洗い出し	
R4年6月10日 ~R4年6月30日	機種選定、導入計画、導入時期の検討	
R4年6月10日 ~R4年6月30日	導入担当者・チーム体制整備検討 (担当者:施設長、検証:各ユニットリーダー中心)	
R4年6月10日 ~R4年6月30日	介護職員等からの意見徴収	
R4年7月4日 ~R4年7月20日	職員の習熟及び教育・研修計画検討	時間外勤務手当支給



R5年2月1日 ～R5年3月31日	導入によるケア方法の見直し	
毎年4月1日 ～6月30日 (R5年から)	効果検証の実施	
毎年7月1日 ～9月30日 (R5年から)	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組 検討	時間外勤務手当支給 内部研修講師派遣料

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社七日町福祉サービス		
事業所名	介護付有料老人ホームときめき七日町 【事業所番号：0670103654】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護（介護予防）	定員数	40名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	<p>[製品名]みてるちゃん2カメラ [導入時期]令和5年3月10日 [導入台数]4台</p> <p>[製品名]10.1インチタブレット型PC（カメラ用） [導入時期]令和4年12月15日 [導入台数]4台</p> <p>[製品名]バイタルビーツ（ベッドセンサー） [導入時期]令和5年3月28日 [導入台数]4台</p> <p>[製品名]無線LAN一式 [導入時期]令和4年12月25日 [導入台数]20台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有）	<p>夜間帯などで1フロアひとり勤務対応をしているが、重複するナースコールや居室内外での転倒に繋がるヒヤリハットの報告が増えてきた。対策として見守り機器を導入活用し、安心安全に生活していただくとともに、職員の業務効率を改善していく必要があると判断した。</p> <p>Wi-Fi環境は二室に1台設置＝20台 見守りカメラは移動可能品とし対象居室に設置＝4台 ベッドセンサーは移動可能品とし対象居室に設置＝4台</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の動線が把握でき転倒を未然に防ぐことができる</li> <li>事故防止委員会で有効な資料として活用できる</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の負担軽減に役立つ</li> <li>入居者への声掛けタイミングが掴める</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居者が居室内で安心安全に過ごせる</li> </ul>		

期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内の入居者状態を全館で共有できデータ分析ができる</li> <li>・職員の負担軽減と離職防止</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内の入居者状態を全館で共有できデータ分析ができる</li> <li>・職員の負担軽減と離職防止</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内の入居者状態を全館で共有できデータ分析ができる</li> <li>・職員の負担軽減と離職防止</li> </ul>
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<p>カメラとベッドセンサーの記録は職員がステーションにいなから入居者の状態把握ができ、介護時間の短縮や効率性、休憩時間の確保等の負担軽減に効果があるほか、入居者の行動前に訪室することで転倒防止やトイレ介助の支援ができる。</p> <p>今まで見えなかった居室内での行動歴等の情報が得られる事で、安心して暮らせる有効な手立てに繋がるケース記録の記載ができ、各種委員会等に活用できる。</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和4年7月4日	導入及び機種選定計画の説明		リーダー会議
令和4年7月11日 ～8月26日	機種選定（意見聴取）と決定		介護リーダー 部長 管理者
令和4年9月5日 ～9月17日	活用方法、使用職員との確認 効果検証担当者を介護リーダーとする		各リーダー 部長 管理者
令和4年11月10日	リーダー会議で内示されたことを報告		リーダー会議
未定	デモ機借り入れ、目標確認、使用方法研修、検証確認		介護職 管理職
令和4年12月15日 令和4年12月25日 令和5年 3月10日 令和5年 3月28日	タブレット納品 無線 LAN 設置 みてるちゃん2納品 バイタルビーツ納品		業者
令和5年 3月10日 令和5年 3月28日	カメラ使用開始 バイタルビーツ使用開始		介護職

令和5年3月10日 ～5月31日	問題点と効果の検証		介護リーダー
令和5年6月1日 ～6月10日	業務改善の検討		リーダー会議
令和5年6月12日～	改善策の実施 検証確認→改善→実施の繰り返し		介護職

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレホーム西田【事業所番号：0690100235】		
介護サービスの種類	小規模多機能型居宅介護事業所	定員数	29名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、arrows BZ02、ThinkCentre M70s [導入時期] 令和4年12月1日 [導入台数] 眠り SCAN(3台)、眠り SCAN eye(1台)、PC(1台) スマホ(1台)、施設内ネットワークの構築(一式)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室内に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時、センサーマット等で対応しているが「眠り SCAN」を使用出来れば離床する前の対応が可能となりスタッフの心身の負担もかなり軽減されると思います。あわせて「眠り SCAN eye」も導入できれば訪室の必要性も事前にわかり、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、弊社他施設でも「平成29年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を14台導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、当施設スタッフからも「眠り SCAN」導入希望の声も上がっており、まずは導入のきっかけとして今回3台導入していきたいと思います。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事のようなのです。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN」を導入できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p> <p>現在、介護ソフトを使用する Wi-Fi 環境はありますが、「眠り SCAN」を導入するにあたって、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設が必要となってきます。またアクセスポイントの増設に伴い、ハブの入替なども必要となってきます。</p>		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠りSCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。</p> <p>また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行っていき</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2021年4月1日～	夜勤時不穏要素のある入居者対応の問題検証。		
2021年10月1日～	見守りロボットの検討開始と機種選定。		
2021年10月1日	社内他施設で使用している「眠りSCAN」の見学と説明会。		
2021年6月1日～ 2021年6月15日	「眠りSCAN」デモ機を借りて試験利用。		
2021年6月20日	スタッフへ聞き取りして機種決定。「眠りSCAN」参考見積を取る。		
2022年8月1日～ 2022年8月29日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2022年12月1日～	交付決定後、すぐに発注。（予定）		
2023年1月1日～ 2026年3月31日	スタッフへアンケート調査（予定）		
2023年1月1日～	「眠りSCAN」勉強会への参加。（予定） （以前導入している眠りSCANユーザー施設が集まり、運用方法と情報交換会を定期的に行っているのので、その勉強会に参加）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレホーム中桜田【事業所番号：0690100193】		
介護サービスの種類	小規模多機能型居宅介護事業所	定員数	29名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、arrows BZ02、ThinkCentre M70s [導入時期] 令和4年12月1日 [導入台数] 眠り SCAN(3台)、眠り SCAN eye(1台)、PC(1台) スマホ(1台)、施設内ネットワークの構築(一式)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室内に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時、センサーマット等で対応しているが「眠り SCAN」を使用出来れば離床する前の対応が可能となりスタッフの心身の負担もかなり軽減されると思います。あわせて「眠り SCAN eye」も導入できれば訪室の必要性も事前にわかり、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、弊社他施設でも「平成29年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を14台導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、当施設スタッフからも「眠り SCAN」導入希望の声も上がっており、まずは導入のきっかけとして今回3台導入していきたいと思います。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事ようです。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN」を導入できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p> <p>現在、介護ソフトを使用する Wi-Fi 環境はありますが、「眠り SCAN」を導入するにあたって、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設が必要となってきます。またアクセスポイントの増設に伴い、ハブの入替なども必要となってきます。</p>		



<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠りSCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。</p> <p>また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行っていき</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2021 年 4 月 1 日～	夜勤時不穏要素のある入居者 対応の問題検証。		
2021 年 10 月 1 日 ～	見守りロボットの検討開始と 機種選定。		
2021 年 10 月 1 日	社内他施設で使用している「眠り SCAN」の見学と 説明会。		
2021 年 6 月 1 日 ～ 2021 年 6 月 15 日	「眠り SCAN」デモ機を借り て試験利用。		
2021 年 6 月 20 日	スタッフへ聞き取りして機種 決定。「眠り SCAN」 参考見積を取る。		
2022 年 8 月 1 日 ～ 2022 年 8 月 29 日	補助金事前協議書の作成、提 出。		
2022 年 12 月 1 日 ～	交付決定後、すぐに発注。(予 定)		
2023 年 1 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日	スタッフへアンケート調査(予 定)		
2023 年 1 月 1 日 ～	「眠り SCAN」勉強会への参 加。(予定) (以前導入している眠り SCAN ユーザー施設が集まり、 運用方法と情報交換会を定期 的に行っているのので、 その勉強会に参加)		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ寒河江【事業所番号：0671200228】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護指定事業者	定員数	46名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、arrows BZ02、ThinkCentre M70s [導入時期] 令和4年1月1日 [導入台数] 眠り SCAN(5台)、眠り SCAN eye(1台)、PC(1台) スマホ(2台)、施設内ネットワークの構築(一式)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室内に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時、センサーマット等で対応しているが「眠り SCAN」を使用出来れば離床する前の対応が可能となりスタッフの心身の負担もかなり軽減されると思います。あわせて「眠り SCAN eye」も導入できれば訪室の必要性も事前にわかり、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、弊社他施設でも「平成29年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を14台導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、当施設スタッフからも「眠り SCAN」導入希望の声も上がっており、まずは導入のきっかけとして今回3台導入していきたいと思います。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事ようです。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN」を導入できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p> <p>現在、介護ソフトを使用する Wi-Fi 環境はありますが、「眠り SCAN」を導入するにあたって、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設が必要となってきます。またアクセスポイントの増設に伴い、ハブの入替なども必要となってきます。</p>		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠りSCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。</p> <p>また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行っていき</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2021年4月1日～	夜勤時不穏要素のある入居者対応の問題検証。		
2021年10月1日～	見守りロボットの検討開始と機種選定。		
2021年10月1日	社内他施設で使用している「眠りSCAN」の見学と説明会。		
2021年6月1日～ 2021年6月15日	「眠りSCAN」デモ機を借りて試験利用。		
2021年6月20日	スタッフへ聞き取りして機種決定。「眠りSCAN」参考見積を取る。		
2022年8月1日～ 2022年8月29日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2022年12月1日～	交付決定後、すぐに発注。（予定）		
2023年1月1日～ 2026年3月31日	スタッフへアンケート調査（予定）		
2023年1月1日～	「眠りSCAN」勉強会への参加。（予定） （以前導入している眠りSCANユーザー施設が集まり、運用方法と情報交換会を定期的に行っているため、その勉強会に参加）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ吉原【事業所番号：0670101781】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護指定事業者	定員数	44名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、arrows BZ02、ThinkCentre M70s [導入時期] 令和4年12月1日 [導入台数] 眠り SCAN(4台)、眠り SCAN eye(1台)、PC(1台) スマホ(2台)、施設内ネットワークの構築(一式)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室内に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時、センサーマット等に対応しているが「眠り SCAN」を使用出来れば離床する前の対応が可能となりスタッフの心身の負担もかなり軽減されると思います。あわせて「眠り SCAN eye」も導入できれば訪室の必要性も事前にわかり、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、弊社他施設でも「平成29年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を14台導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、当施設スタッフからも「眠り SCAN」導入希望の声も上がっており、まずは導入のきっかけとして今回3台導入していきたいと思います。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事ようです。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN」を導入できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p> <p>現在、介護ソフトを使用する Wi-Fi 環境はありますが、「眠り SCAN」を導入するにあたって、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設が必要となってきます。またアクセスポイントの増設に伴い、ハブの入替なども必要となってきます。</p>		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。</li> <li>・利用者の睡眠状況の管理により、健康の管理。</li> <li>・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠りSCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。</p> <p>また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行っていき</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 天童福祉厚生会		
事業所名	特別養護老人ホーム明幸園 【事業所番号：0671600237】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[介護ロボット製品名] 眠りスキャン（パラマウントベッド株式会社） 導入台数 20台 [通信環境整備製品名] Wi-Fi 工事 インカム（ティーピーアイ） 導入台数 10機 [導入時期] 令和5年3月1日		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有）	<p>現在、課題として挙げられるのは、①介護従事者の身体的・心理的な負担の解消、②離職者の減少、③ご利用者のケアの質の維持、この3点です。特に夜間帯はスタッフ配置数が少ないため、行き届いた支援やタイムリーな支援を行うには、スタッフの献身的な働きに頼らざるを得ないのが実情です。また、夜間のスタッフ間情報共有についても内線電話を用いることから、迅速さを欠く状況が常態化しています。上記機器を活用することでご利用者の睡眠状態やベッド上での状態変化をモニターで把握でき、安眠を妨げることのない見守りと、待たせることのない支援が可能になります。また、体調変化の早期察知は、看取り期介護にも大いに活用できると考えています。更にインカム等で素早く情報共有を図ることで業務負担を軽減し、ひいては人員体制や支援の効率化に繋がれると期待しています。</p> <p>当施設はユニット型特養で1ユニット10室としていますので、各ユニット2台ずつの計20台が妥当と考えています。ユニット毎に複数台準備することで、施設で積極的に取り組んでいる看取り介護の実践にも導入が可能です。</p> <p>介護の仕事の最大の特徴は“待つこと”にあります。支援を必要とするご利用者の訴えや動き、食事や排せつなどの生活行為に合わせて、“待たせること”なく支援することが優れたケアには不可欠です。そういった望ましい介護環境を追求するためには、介護ロボットやICT技術の導入等によりマンパワーを補填し強化することが時代に即した一つの在り方ではないかと考え、私たちはこれまで委員会を立ち上げるなど検討を重ね、導入に向けての準備を進めてきました。</p>		



<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボット導入に伴う職員研修やマニュアル等を作成し、機器操作の習熟を図り、日常業務に取り込みます。</li> <li>・ ご利用者の眠りの状態に合わせてケアを行います。特に入居後間もない方の睡眠データを活用し、安眠を妨げない個別ケアの実践、転倒などのリスクヘッジに努めます。</li> <li>・ 看取り介護場面では状態変化にあわせて見守り、訪室できるよう機器を活用し、付き添い家族の不安軽減を図っていきます。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年実績を踏まえて検証を行い、昼夜を問わず、より効果的な活用を図ります。</li> <li>・ 睡眠データを活用して、個別援助計画の質の向上を目指します。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボット導入成功要因を実証データなどを踏まえ再検証し、更なる機器導入・拡充を検討します。</li> <li>・ 眠りの見える化をすすめ夜間見守りのオペレーションを改善し、介護・業務負担の軽減と効率化を図ります。</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者の睡眠の質を高めることが期待されます。また、眠りの深さをモニターできることで動き出しの予測が可能になり、転倒や転落事故のリスクは大きく軽減します。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠データの集約と分析、効果的な実践が浸透し、個別ケアの水準が高まることを期待しています。ご利用者の生活を改善することが、介護従事者の安心確保、負担軽減を図るための第一歩です。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護従事者の心理的、身体的負担を軽減することで労務環境の改善を図り、離職率低減と平均勤続年数の長期化が期待されます。</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効果検証のための委員会を立ち上げ、導入事例の振り返りを行います。</li> <li>・ インシデント事例、アクシデント事例の集計と検証を行います。</li> <li>・ ご利用者の睡眠の質改善について測定データに基づいて検証を行います。また、睡眠導入剤などの投薬効果、減薬事例の有無、不眠解消事例等の情報共有を図ります。</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2023年1月23日 ～2023年1月27日	導入打ち合わせ。 管理ユニットおよび設置位置確認。		
2023年2月6日 ～2023年2月10日	施設内無線状況 LAN 配線状況確認。 現行接続 IP アドレスの確認、電源状況の 確認。		
2023年2月13日 ～2023年2月17日	無線 LAN 配線工事の実施。		
2023年2月20日 ～2023年2月24日	眠りスキャン等装置導入・通信確認。 ソフトインストール作業・サーバー設置 作業。		
2023年2月27日 ～2023年2月28日	勤務形態に合わせて、取扱い説明を2日 間で実施予定。 運用例、インシデント対策等。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 遊作厚生会 <span style="float: right;">5</span>		
事業所名	特別養護老人ホーム中河のニエツト型 【事業所番号: 067320053】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	30名
(介護ロボットの製品名) (通信環境整備の製品名) 導入時期及び台数	[製品名] スマート・ナースコール あんしんの絆 (2ニエツト・ネットワーク) [導入時期] 令和5年/月20日 [導入台数] 一式		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月 ~ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	ニエツトナースコール更新を今年度と決定した理由は2つある。 1つ目は、2022年12月1日より電波法が改正になるということ。これは、コロナ感染の拡大により、施行が延期される見込みだが、いづれ改正されることを考慮。 2つ目は、転倒や危険な行動の際に、ナースコールの反応が良く、その画面も見やすく、見守りに適しているということ。転倒やケガが減少することで、職員の精神的、身体的負担を軽減し、職員の離職防止に繋がってほしい。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 新しくな、ナースコール機器の機能を理解し、有効的に活用することができる。 ○2年目 転倒や危険行為に対して早目の対応ができる。ケガや処置が減少することで、職員の精神的、身体的負担を軽減ができる。 ○3年目 転倒や危険行為を予防できるようになり、個別ケアが計画に沿って進めることができる。また、職員の意欲向上が期待できる。		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ナースコール機器の機能を理解し、入所者の見守りを徹底し、重複したコールは、優先順位を正確に判断できる。 ○2年目 見守りにより転倒や危険行為に対して、早目の対応ができるようになり、ケガ等による通院の頻度が減少する。 ○3年目 職員の仕事に対する意欲と入所者のQOLが向上し、離職が減少する。		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等		

### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	経費概要	備考
R3年10月21日 ～ 年 月 日	トスコール更新にかかる会議 導入に向けスケジュールを確認	0	
R3. 10. 26. R3. 11. 8.	トスコール業者よりプレゼン (1社) " (2社)	0	
R3. 11. 16.	第2回会議 プレゼンを受け2検討	0	
R3. 12. 10	介護課長の他、介護職員4名 先進地視察	0	
R3. 12. 23	第3回会議 機種選定	0	
R4. 4. 1.	管理責任者と施設長とし、設置ル ール、利用者より同意書案を作成	0	プライバシーに 留意。
R4. 8. 10	wi-fi設置業者、トスコール取扱い 業者、施設担当者との間で打ち合 せと申し送り。	0	
R4. 9. 28	第3回理事会に議案を提出 承認を受ける。	0	
R4. 10. 1 ～ R4. 10. 31	家族への説明文書、配布個 別計画と策定し同意書をといただく。	0	
R5. 1. 20 ～ R5. 2. 15	機器導入予定、設置工事と 着工。		
R5. 2. 16 ～ R5. 2. 20	メーカーより職員向け説明会 トスコール機能の習熟。	0	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備 (導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者 (介護職員等) の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画 (マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討 (実績報告から3年目までの取組)

### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	経費概要	備考
R5年 2月 /日 ~ R5年 4月 10日	運用上の問題点を1ヶ月後にヒアリング。改善計画を立て実行。	0	
R5. 7. 10 ~ R6. 1. 31	QOLの向上に向けて家族からの意見を参考し見直しを行う。	0	
R6. 2. 1 ~ R6. 9. 31	利用者の行動や生活リズムを把握。記録を検証。	0	
R6. 10. 1 ~ R7. 3. 31	利用者の個別ケアの見直し。介護看護職員の情報共有。	0	
R7. 4. 1 ~ R8. 3. 31	利用者の個別ケアの充実を図られているか、家族の要望の把握。	0	


※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 遊佐厚生会 		
事業所名	ショートステイ ゆうかい ユニット型 【事業所番号: 06732005151】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	5名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] スマート・タスコール あんしん糸絆 (ユニティネットワーク) [導入時期] 令和4年1月20日 [導入台数] 一式		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	タスコール更新を今年度と決定した理由は2つ。 1つ目は、2022年12月1日より電波法が改正になること。コト有感 染拡大により施行が遅れているが、いづれ改正される事を考慮。 2つ目は、転倒や危険な行動の際、タスコールの反応が良く、回 面も見やすく、見守りに適している。転倒やケガが減少することで 職員の精神的・身体的負担を軽減し、職員の離職防止につ なげたい。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 新しくなったタスコール機器の機能を理解し、有効的に活用することが出来る。 ○2年目 転倒や危険行為に対して、早目の対応ができるようになる。ケガや処置が減少する事で、職員の精神的・身体的負担の軽減ができる。 ○3年目 転倒や危険行為を予防できるようになり、個別ケアが計画に沿って進めることが出来る。また、職員の意欲向上が期待できる。		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 タスコール機器の機能を理解し、入所者の見守りを徹底し、重複したコールは、優先順位を正確に判断できる。 ○2年目 見守りにより、転倒や危険行動に対して、早目の対応が出来るようになる。ケガ等による通院の頻度が減少する。 ○3年目 職員の仕事に対する意欲と入所者のQOLが向上し、離職が減少する。また、事業所の目標稼働率を維持できる。		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等		

### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	経費概要	備考
R3年10月21日 ～ 年 月 日	トスコル更新にかかる会議。 導入向けスケジュールを確認。	0	
R3. 10. 26 R3. 11. 8	トスコル業者よりプレゼン(1社) " (2社)	0	
R3. 11. 16	第2回会議 プレゼンを受け検討。	0	
R3. 12. 10	介護課長その他、介護職員4名 先進地視察。	0	
R3. 12. 23	第2回会議 機種選定。	0	
R4. 4. 1	管理責任者と施設長とし、設 置ルール、利用者より同意書案を作成	0	プライバシーに 留意。
R4. 8. 10	wi-fi設置業者、トスコル取扱 業者、施設担当者との間で打合 せと申し送り。	0	
R4. 9. 28	第3回理事会に議案を提 出し承認を受ける。	0	
R4. 10. 1 ～ R4. 10. 31	家族への説明文書の配布、個別 計画を策定し、同意書をといただく。	0	
R5. 1. 20 ～ R5. 2. 15	機器導入予定、設置工事に 着工。		
R5. 2. 16 ～ R5. 2. 20	メーカーより職員向け説明会。 トスコル機能の習熟。	0	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	経費概要	備考
R5年3月1日 ~ R5年4月10日	運用上の問題点、1ヶ月後に "チャレンジ"改善計画を立ち実行。	0	
R5.7.10. ~ R6.1.31	QOLの向上について家族から の意見を参考に、見直しを行う。	0	
R6.2.1 ~ R6.9.31	利用者の行動や生活リズムを 把握・記録・検証。	0	
R6.10.1 ~ R7.3.31	利用者の個別ケアの見直し。 介護・看護職員の情報の共有。	0	
R7.4.1 ~ R8.3.31	利用者の個別ケアの実践が図 られているか、家族の要望の把握。	0	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 碧水会		
事業所名	特別養護老人ホームらふるんす大江 【事業所番号：0672300308】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	92
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ○メーカー (株) バイオシルバー製 aams. 介護本体 DO18-AAMSK 20 台 NC ケーブル CC14 BO15-BSR03NCC 20 本 分配器 WELLL タイプ BB-301WZ-2P/W6P-NC 20 台 介護用感圧センサー B018-PSS01 10 台 AXIS 製ネットワークカメラ (無線) M1065-LW 10 台 ネットワークカメラ用 SD カード AXIS 純正 10 枚 タブレット PC-T1175BAS 4 台 管理マスターサーバー L11-20NUCMS03 1 台 設定・設置費 1 式 [導入時期] 令和4年12月1日 [導入台数] 20 台		
	○メーカー (株) バッファロー製 法人向け管理者機能搭載無線アクセスポイント WAPM-1266R 37 台 レイヤー2GigaPoE スマートスイッチ 8ポート BS-GS2008P 3 台 レイヤー2GigaPoE スマートスイッチ 16ポート BS-GS2016P 4 台 ネットワーク工事費 1 式 キットティング作業着 1 式 [導入時期] 令和4年12月1日 [導入台数] 1 式		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○ <b>購</b> 入 リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	夜間時に、ナースコールの呼び出しに、すぐに対応することができず、転倒などの事故の件数が多く発生していた。その他、看取り期の方に対して、状態の変化には、定期的な見守りでしか対応できず、緊急時には不十分であった。(いつ事故がおきるか職員の心理的不安が多かった。) 今回、上記の状態を通信機器 (Wi-Fi) と、ロボット機器 (センサーマット)、映像カメラ及びタブレット等を導入することにより、利用者のバイタルチェックを、映像と記録で科学的に判断することができ、効率的介護やアラート発生時の居室の様子の映像を確認でき緊急性があるか瞬時の判断をすることができる。そのうえ看取り期においても家族にデータや映像で説明することで、職員と家族との信頼関係も深まり、科学的な介護と家族へのよりスムーズな説明が可能で、職員の不安を解消、強いては働きやすい職場環境の改善につながり離職率に低下が期待できる。		

<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p>	<p>○導入後(翌年)1年目 利用者の見守り、特に夜間時の利用者の情報把握。</p> <p>○2年目 1年目で得られた情報を基に各職員の共通情報として各職員のスキルの標準化を図る。</p> <p>○3年目 2年目迄に得られた情報を基に今後の新しく入所される対応のスタンダード化し職員の働きやすい環境整備。</p>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後(翌年)1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤時の見守りの効率化。</li> <li>・転倒リスクの回避。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人手不足の解消。</li> <li>・離職者の低下。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人手不足の解消。</li> <li>・時間外手当の削減。</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>○利用者の急な状態変化をアラート通知され、また毎日の睡眠状態の記録を残すことも出来るため、体調・生活状況の管理を強化でき個別のケアが実現可能。</p> <p>○データを基に日々の状況をご家族様へ報告することも可能。</p> <p>○モニターで状態確認ができるため、夜間時の訪室業務の負担軽減、介護者のストレス軽減。</p> <p>○対象者の状態を理解することにより、必要な措置・サービス提供を素早く判断でき、介護サービス提供の目的・行動が明確になり労働意欲が増す。</p> <p>○アラート発生時の居室の様子を映像で確認でき、緊急性があるかどうか瞬時に確認できて、職員の不安を解消できる。</p> <p>○頻繁に居室に訪問する必要がなくなり、感染症の拡散防止や、業務の効率化は図れる。</p> <p>○機器で取得したデータをご家族とも共有することで、言葉だけの説明でなく、より具体的なデータを示すことで理解しやすく、信頼関係も築ける。</p> <p>○映像、記録データを保存するデジタル化により、効率的に時間を費やすことができ、日誌等の記録も一元化につながり、他の介護業務に時間かけることができる。</p>

### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	備考
R4年6月1日 ～R4年8月23日	<p>担当国会議及び主任会議にて業務状況の確認と問題点の洗い出しを行った。</p> <p>特に夜間の見守り負担が大きく肉体的より精神的負担増。予期せぬ行動をされる方、転倒・転落リスクの高い方のヒヤリハットの対策が必要。</p>	
R4年6月1日 ～R4年8月23日	<p>機種選定・導入計画の検討を行った結果、見守り介護ロボットを導入し利用者の心拍・呼吸・体動・睡眠状態を確認できる機種とする。また、見守り介護ロボットと連動するカメラと離床センサーを併用し、転倒リスクが高い方はプライバシーを考慮しながらタブレットで利用者の状況を瞬時に把握できるようにする。また記録も残すことで検証が可能になり解決策の検討に役立てる。</p>	
R4年6月1日 ～R4年8月23日	<p>導入担当者は事務局長が行い、ターミナル期の方・体調を崩された方・転倒リスクが高い方・入所されたばかりの方をメインに使用し、バイタル状況の把握と行動把握により必要な措置・サービス提供を素早く判断する。</p> <p>効果検証の各担当者は総括主任及び主任が担当し定期的な報告会をもって情報共有・課題検討を行う。</p>	
R4年6月1日 ～R4年8月23日	<p>実際に機器を使用する者の意見聴取方法は、各棟のミーティング内で行い、介護ロボットに関する報告書も検討する。</p>	
R4年12月1日 ～R4年12月31日	<p>交付決定後、Wi-Fi工事及び導入機器の発注を行う。</p> <p>Wi-Fi工事が完了次第、見守り介護ロボットを導入し、ランニング(調整)を行う。</p>	
R5年1月1日 ～R5年1月31日	<p>導入後、メーカーによる研修会を数回に分けて行い関係する職員が参加できるようにして習熟する。マニュアル整備を行い、メーカーのお客窓口のサポートも活用する。</p>	
R5年1月1日 ～R5年1月31日	<p>見守り機器で得られた状態変化の通知や睡眠状態の記録から利用者の体調・生活状況の管理を強化し個別ケアに繋げる。夜間の訪室業務の負担軽減、介護者の先進的ストレス軽減に繋げ安心して就業できる職場環境の構築を目指す。</p>	
R6年4月末日 ～R8年4月末日	<p>効果の検証を毎年行い、業務状況の確認と問題点を洗い出し、見守り介護ロボットのメリットを最大限活かすための使用計画を検討・修正する。</p>	
R6年4月末日 ～R8年4月末日	<p>効果検証に基づき業務改善の取り組みを検討する。</p> <p>1年目：利用者の見守り、特に夜間時の利用者の情報把握並びに転倒・転落事故を未然に防ぐ体制作り</p> <p>2年目：1年目で得られた情報を元に各職員の共通情報として各職員のスキルの標準化を図る。データを活用した見守り体制作り。</p> <p>3年目：2年目迄に得られた情報を基に職員の訪室業務の負担軽減・ストレス軽減に繋げ安心して就業できる職場環境を構築する。</p>	

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 平田厚生会		
事業所名	寿康園指定短期入所生活介護事業所 【事業所番号：0673200119】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	16名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	<p>[製品名]見守りカメラ連動式無線ナースコールあんしんの絆 離床センサー（10台）ネットワークカメラ（16台）管理サーバ スマートフォン（6台）ビューワPC（1台）Wi-Fiゲートウェイ（1 台）接続変換機（離床センサー）（10台）HUB(5ポート)（1台） ワイヤレスインターフェースボックス（10台）ビューワPCディス プレイ（1台）レピーター（1台）PoEスプリッタ（16個）マット センサーコネクタプラグ（10台） HUB(16ポート/内PoE16ポート)（1台） 見守り機器通信環境整備一式 [導入時期] 令和5年2月末 [導入台数]</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>現在、利用者の見守り支援には人感センサー、起き上がりセンサー等を使用し転倒転落の未然防止を行っているが、その都度確認し訪室する為、防げる事故も間に合わないケースや、職員の見守り業務の負担になっている。また夜間帯は少人数で見守り業務を行なっているため、職員のストレス緩和や不安軽減の必要性があり、ナースコール連動型見守り機器を新規導入し、居室内に見守りカメラを設置し、訪室する前に安全確認ができる見守り支援を行い、職員の負担軽減を図り、未然防止策が徹底できるよう活用したい。また、ベッド上でも身体の異常を速やかに感知するバイタルセンサーに連動させ、看取りの方の対応にも活用したいと考えます。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用方法など職員の勉強会を行う。</li> <li>・カメラ作動時の記録や様子を共有し、事故、危険防止に繋げる。</li> <li>・新機種導入後に負担軽減の有無について聞き取りを行い検討する。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り機器を導入することで、利用者のADLが確認され、よりの確な介護記録ができるようにする。</li> <li>・使用状況の聞き取りを行い業務の見直しによる効率化につながるようにする。</li> <li>・状態変化や看取り時の迅速な対応ができるようにする。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい見守りシステムにより、効率よくご利用者の安全確認ができるようにすると共に、リスク軽減や職員の不安軽減と情報の共有、人材確保に努める。</li> <li>・ご利用者の体調など適切な記録を残しご家族様の安心に努める。</li> </ul>		

期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にカメラ導入となり不要に訪室しないことによって、利用者の羞恥心や精神面等への配慮が行える。また利用者の夜間の安眠にも繋がる。</li> <li>・万が一転倒などが起きた際も、カメラの記録から検討内容が明確に読み取れ、対策がとれる。</li> <li>・不必要な訪室が軽減され、感染症対策ができています。</li> <li>・職員の負担・不安・ストレスの軽減ができています。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率化による業務改善ができています。</li> <li>・看取りケアの強化ができています。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新機種を有効活用し事故防止に繋がられている。</li> <li>・職員の心身面の負担を軽減し働きやすい職場ができています。</li> </ul>
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へ使用状況のアンケートを行う。（使用前、使用後の違い）</li> <li>・見守りカメラやセンサー等を活用した事故発生時のデータを取りまとめ、検証を行う。</li> </ul>

## 2 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	備考
令和元年9月13日 ～元年10月14日	<p>福祉機器導入検討委員会発足 令和元年福祉機器導入委員会について 第一回 夜間帯の事故が多く、職員の不安軽減になるような見守りセンサー等について。またPHSなど連動し何処で鳴っているか手元でわかり、職員間の連絡もスムーズに行える機器を希望したいなど意見が出た。 ※職員へ福祉機器導入についてアンケート実施。</p> <p>第二回 アンケート結果について、職員の要望等の把握を行い検討。また最新の福祉機器導入施設へ出向き見学等の案もでた。</p> <p>第三回 職員研修旅行で福祉機器メーカーのイベントへ参加した職員より、ナースコール連動型見守り機器がありその資料を集める。</p> <p>R元.10.15～3ヶ月</p>	
令和2年1月17日 ～2年11月6日	<p>令和2年福祉機器導入委員会について 第一回 ナースコール連動型見守り機器使用調査の結果報告。 12/11山形福祉機器展に全委員が視察し様々な機器の説明を受けた。それに伴い導入福祉機器の検討を行う</p> <p>第二回</p>	

	<p>多くの福祉機器が存在しているため、機器の説明会を行いアンケート調査により機器を選定する。</p> <p>※R2.10/28.29.30.11/2 に職員説明会実施</p> <p>第三回</p> <p>福祉機器導入職員説明会についての報告。</p> <p>移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援、入浴支援、介護業務支援、見守り機器導入に伴う通信環境整備、ICT 機器について商品説明を行った。</p> <p>職員アンケート結果についての報告。</p> <p>アンケートを行い、現場で働く介護職員が福祉機器を導入することで、仕事や心身の負担軽減や改善できることが明確になった。</p>	
令和3年1月20日 ～3年8月12日	<p>令和3年福祉機器導入委員会について</p> <p>第一回</p> <p>LAN配線工事についての報告。</p> <p>Wi-Fi 設定についての報告。</p> <p>第二回</p> <p>Wi-Fi 工事等の進行状況について報告。</p> <p>第三回</p> <p>Wi-Fi 設備が整い今年度導入する方向性とする。</p> <p>※福祉機器を絞り見積もりを依頼。</p> <p>※R3.5/20.7/7.14 業者よりリモート説明会実施する。</p> <p>「眠りscan」「ココヘルパー」「安心の絆」</p> <p>7/20「あんしんの絆」使用施設に出向き使用状況や設置に関することを直接伺い、また実際現場での使用状況の見学を行う。</p> <p>第四回</p> <p>福祉機器使用施設見学の報告及び導入器機の最終選定。</p> <p>「あんしんの絆」導入を決定し、居室カメラやスマートフォンの台数、設置場所の検証等話し合う。またバイタルセンサーや見守りセンサー、離床センサーの設置台数を検討し業者へ見積もりを依頼する。</p>	
令和3年9月1日	<p>令和3年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。</p>	
令和3年10月～ 12月末	<p>補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。</p> <p>居室にカメラ設置の為、ご家族へ説明しご理解を得る。</p>	
令和4年3月1日	<p>施設内で発生した新型コロナウイルス感染により、工事を期限内に完了させることが難しくなったため事業中止とし、県より承認を得る。</p>	
令和4年7月末	<p>令和4年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。</p>	

令和4年9月～ 令和5年1月末	補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。 居室にカメラ設置の為、ご家族へ説明しご理解を得る。	
令和5年2月末	工事完了。	
令和5年3月～ 3月末	職員へ機器操作勉強会を行う。	
令和5年4月～ 令和6年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 見守り機器導入により、カメラの記録から介護事故検討対策を明確にし対応する。	
令和7年4月～ 令和8年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 職員の使用状況を把握し、業務や心身面の疲労度確認、課題について対策を検討。 業務の効率化に伴い、ご利用者との関わりについてADL状況の観察により個人に応じた介護等の見直し。	
令和8年4月～ 令和9年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 ご利用者の安全確認の効率性、介護事故の軽減や体調変化時の対応状況の確認と改善。 働きやすい職場環境と人材確保の検証。	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 平田厚生会		
事業所名	寿康園指定介護老人福祉施設(従来型) 【事業所番号:0673200267】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	36名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]見守りカメラ連動式無線ナースコールあんしんの絆 バイタルセンサー(1台) 離床センサー(15台) ビューワPC(2台) スマートフォン(10台) ネットワークカメラ(36台) 管理サーバー Wi-Fi ゲートウェイ(2台) 接続変換機(離床センサー)(15台) ワイヤレスインターフェースボックス(15台) ビューワPC ディスプレイ(2台) レピーター(2台) PoE スプリッタ(37個) マットセンサーコネクタプラグ(15台) HUB(24ポート/内 PoE 24ポート)(1台) HUB(16ポート/内 PoE 16ポート)(1台) 見守り機器通信環境整備一式 [導入時期] 令和5年2月末 [導入台数]</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>現在、利用者の見守り支援には人感センサー、起き上がりセンサー等を使用し転倒転落の未然防止を行っているが、その都度確認し訪室する為、防げる事故も間に合わないケースや、職員の見守り業務の負担になっている。また夜間帯は少人数で見守り業務を行なっているため、職員のストレス緩和や不安軽減の必要性があり、ナースコール連動型見守り機器を新規導入し、居室内に見守りカメラを設置し、訪室する前に安全確認ができる見守り支援を行い、職員の負担軽減を図り、未然防止策が徹底できるよう活用したい。また、ベッド上でも身体の異常を速やかに感知するバイタルセンサーに連動させ、看取りの方の対応にも活用したいと考えます。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目 ・使用方法など職員の勉強会を行う。 ・カメラ作動時の記録や様子を共有し、事故、危険防止に繋げる。 ・新機種導入後に負担軽減の有無について聞き取りを行い検討する。</p> <p>○2年目 ・見守り機器を導入することで、利用者のADLが確認され、よりの確な介護記録ができるようにする。 ・使用状況の聞き取りを行い業務の見直しによる効率化につながるようにする。 ・状態変化や看取り時の迅速な対応ができるようにする。</p> <p>○3年目 ・新しい見守りシステムにより、効率よくご利用者の安全確認ができるようにすると共に、リスク軽減や職員の不安軽減と情報の</p>		



	<p>共有、人材確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の体調など適切な記録を残しご家族様の安心に努める。</li> </ul>
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にカメラ導入となり不要に訪室しないことによって、利用者の羞恥心や精神面等への配慮が行える。また利用者の夜間の安眠にも繋がる。</li> <li>・万が一転倒などが起きた際も、カメラの記録から検討内容が明確に読み取れ、対策がとれる。</li> <li>・不必要な訪室が軽減され、感染症対策ができています。</li> <li>・職員の負担・不安・ストレスの軽減ができています。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率化による業務改善ができています。</li> <li>・看取りケアの強化ができています。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新機種を有効活用し事故防止に繋がっている。</li> <li>・職員の心身面の負担を軽減し働きやすい職場ができています。</li> </ul>
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へ使用状況のアンケートを行う。（使用前、使用後の違い）</li> <li>・見守りカメラやセンサー等を活用した事故発生時のデータを取りまとめ、検証を行う。</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	備考
令和元年 9月13日 ～元年 10月14日	<p>福祉機器導入検討委員会発足 令和元年福祉機器導入委員会について 第一回</p> <p>夜間帯の事故が多く、職員の不安軽減になるような見守りセンサー等について。また PHS など連動し何処で鳴っているか手元でわかり、職員間の連絡もスムーズに行える機器を希望したいなど意見が出た。</p> <p>※職員へ福祉機器導入についてアンケート実施。</p>	

	<p>第二回 アンケート結果について、職員の要望等の把握を行い検討。また最新の福祉機器導入施設へ出向き見学等の案もでた。</p> <p>第三回 職員研修旅行で福祉機器メーカーのイベントへ参加した職員より、ナースコール連動型見守り機器がありその資料を集める。</p> <p>R元.10.15～3ヶ月</p>	
<p>令和2年1月17日 ～2年11月6日</p>	<p>令和2年福祉機器導入委員会について</p> <p>第一回 ナースコール連動型見守り機器使用調査の結果報告。 12/11山形福祉機器展に全委員が視察し様々な機器の説明を受けた。それに伴い導入福祉機器の検討を行う</p> <p>第二回 多くの福祉機器が存在しているため、機器の説明会を行いアンケート調査により機器を選定する。 ※R2.10/28.29.30.11/2に職員説明会実施</p> <p>第三回 福祉機器導入職員説明会についての報告。 移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援、入浴支援、介護業務支援、見守り機器導入に伴う通信環境整備、ICT機器について商品説明を行った。 職員アンケート結果についての報告。 アンケートを行い、現場で働く介護職員が福祉機器を導入することで、仕事や心身の負担軽減や改善できることが明確になった。</p>	
<p>令和3年1月20日 ～3年8月12日</p>	<p>令和3年福祉機器導入委員会について</p> <p>第一回 LAN配線工事についての報告。 Wi-Fi設定についての報告。</p> <p>第二回 Wi-Fi工事等の進行状況について報告。</p> <p>第三回 Wi-Fi設備が整い今年度導入する方向性とする。 ※福祉機器を絞り見積もりを依頼。 ※R3.5/20.7/7.14業者よりリモート説明会実施する。 「眠りscan」「ココヘルパー」「安心の絆」 7/20「あんしんの絆」使用施設に出向き使用状況や設置に関することを直接伺い、また実際現場での使用状況の見学を行う。</p> <p>第四回 福祉機器使用施設見学の報告及び導入器機の最終選定。 「あんしんの絆」導入を決定し、居室カメラやスマートフォンの台数、設置場所の検証等話し合う。またバイタルセンサーや見守りセンサー、離床センサーの設置台数を検討し業者へ見積</p>	

	もりを依頼する。	
令和3年9月1日	令和3年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。	
令和3年10月～ 12月末	補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。 居室にカメラ設置の為、ご家族へ説明しご理解を得る。	
令和4年3月1日	施設内で発生した新型コロナウイルス感染により、工事を期限内に完了させることが難しくなったため事業中止とし、県より承認を得る。	
令和4年7月末	令和4年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。	
令和4年9月～ 令和5年1月末	補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。 居室にカメラ設置の為、ご家族へ説明しご理解を得る。	
令和5年2月末	工事完了。	
令和5年3月～ 3月末	職員へ機器操作勉強会を行う。	
令和5年4月～ 令和6年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 見守り機器導入により、カメラの記録から介護事故検討対策を明確にし対応する。	
令和6年4月～ 令和7年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 職員の使用状況を把握し、業務や心身面の疲労度確認、課題について対策を検討。 業務の効率化に伴い、ご利用者との関わりについてADL状況の観察により個人に応じた介護等の見直し。	
令和7年4月～ 令和8年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 ご利用者の安全確認の効率性、介護事故の軽減や体調変化時の対応状況の確認と改善。 働きやすい職場環境と人材確保の検証。	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 平田厚生会		
事業所名	寿康園指定短期入所生活介護事業所 【事業所番号：0673200119】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	16名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]見守りカメラ連動式無線ナースコールあんしんの絆 離床センサー（10台）ネットワークカメラ（16台）管理サーバー スマートフォン（6台）ビューワPC（1台）Wi-Fiゲートウェイ（1 台）接続変換機（離床センサー）（10台）HUB(5ポート)（1台） ワイヤレスインターフェースボックス（10台）ビューワPCディス プレイ（1台）レピーター（1台）PoEスプリッタ（16個）マット センサーコネクタプラグ（10台） HUB(16ポート/内PoE16ポート)（1台） 見守り機器通信環境整備一式 [導入時期] 令和5年2月末 [導入台数]</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題 点・導入台数の妥当性・ 職員との導入意義の共 有）	<p>現在、利用者の見守り支援には人感センサー、起き上がりセンサー 等を使用し転倒転落の未然防止を行っているが、その都度確認し訪 室する為、防げる事故も間に合わないケースや、職員の見守り業務 の負担になっている。また夜間帯は少人数で見守り業務を行なっ ているため、職員のストレス緩和や不安軽減の必要性があり、ナース コール連動型見守り機器を新規導入し、居室内に見守りカメラを設 置し、訪室する前に安全確認ができる見守り支援を行い、職員の負 担軽減を図り、未然防止策が徹底できるよう活用したい。また、ベ ッド上でも身体の異常を速やかに感知するバイタルセンサーに連動 させ、看取りの方の対応にも活用したいと考えます。</p>		
機器を導入することに より達成する目標（機器 導入の翌年から3年間、 年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用方法など職員の勉強会を行う。</li> <li>・カメラ作動時の記録や様子を共有し、事故、危険防止に繋げる。</li> <li>・新機種導入後に負担軽減の有無について聞き取りを行い検討す る。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り機器を導入することで、利用者のADLが確認され、よりの 確な介護記録ができるようにする。</li> <li>・使用状況の聞き取りを行い業務の見直しによる効率化につながる ようにする。</li> <li>・状態変化や看取り時の迅速な対応ができるようにする。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい見守りシステムにより、効率よくご利用者の安全確認がで きるようにすると共に、リスク軽減や職員の不安軽減と情報の共有、 人材確保に努める。</li> <li>・ご利用者の体調など適切な記録を残しご家族様の安心に努める。</li> </ul>		

期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にカメラ導入となり不要に訪室しないことによって、利用者の羞恥心や精神面等への配慮が行える。また利用者の夜間の安眠にも繋がる。</li> <li>・万が一転倒などが起きた際も、カメラの記録から検討内容が明確に読み取れ、対策がとれる。</li> <li>・不必要な訪室が軽減され、感染症対策ができています。</li> <li>・職員の負担・不安・ストレスの軽減ができています。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率化による業務改善ができています。</li> <li>・看取りケアの強化ができています。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新機種を有効活用し事故防止に繋がられている。</li> <li>・職員の心身面の負担を軽減し働きやすい職場ができています。</li> </ul>
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へ使用状況のアンケートを行う。（使用前、使用後の違い）</li> <li>・見守りカメラやセンサー等を活用した事故発生時のデータを取りまとめ、検証を行う。</li> </ul>

## 2 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	備考
令和元年 9月13日 ～元年 10月14日	<p>福祉機器導入検討委員会発足 令和元年福祉機器導入委員会について 第一回 夜間帯の事故が多く、職員の不安軽減になるような見守りセンサー等について。また PHS など連動し何処で鳴っているか手元でわかり、職員間の連絡もスムーズに行える機器を希望したいなど意見が出た。 ※職員へ福祉機器導入についてアンケート実施。</p> <p>第二回 アンケート結果について、職員の要望等の把握を行い検討。また最新の福祉機器導入施設へ出向き見学等の案もでた。</p> <p>第三回 職員研修旅行で福祉機器メーカーのイベントへ参加した職員より、ナースコール連動型見守り機器がありその資料を集める。 R 元.10.15～3ヶ月</p>	
令和2年 1月17日 ～2年 11月6日	<p>令和2年福祉機器導入委員会について 第一回 ナースコール連動型見守り機器使用調査の結果報告。 12/11 山形福祉機器展に全委員が視察し様々な機器の説明を受けた。それに伴い導入福祉機器の検討を行う</p> <p>第二回</p>	

	<p>多くの福祉機器が存在しているため、機器の説明会を行いアンケート調査により機器を選定する。</p> <p>※R2.10/28.29.30.11/2 に職員説明会実施</p> <p>第三回 福祉機器導入職員説明会についての報告。 移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援、入浴支援、介護業務支援、見守り機器導入に伴う通信環境整備、ICT 機器について商品説明を行った。 職員アンケート結果についての報告。 アンケートを行い、現場で働く介護職員が福祉機器を導入することで、仕事や心身の負担軽減や改善できることが明確になった。</p>	
令和3年1月20日 ～3年8月12日	<p>令和3年福祉機器導入委員会について</p> <p>第一回 LAN配線工事についての報告。 Wi-Fi 設定についての報告。</p> <p>第二回 Wi-Fi 工事等の進行状況について報告。</p> <p>第三回 Wi-Fi 設備が整い今年度導入する方向性とする。 ※福祉機器を絞り見積もりを依頼。 ※R3.5/20.7/7.14 業者よりリモート説明会実施する。 「眠りscan」「ココヘルパー」「安心の絆」 7/20「あんしんの絆」使用施設に出向き使用状況や設置に関することを直接伺い、また実際現場での使用状況の見学を行う。</p> <p>第四回 福祉機器使用施設見学の報告及び導入器機の最終選定。 「あんしんの絆」導入を決定し、居室カメラやスマートフォンの台数、設置場所の検証等話し合う。またバイタルセンサーや見守りセンサー、離床センサーの設置台数を検討し業者へ見積もりを依頼する。</p>	
令和3年9月1日	<p>令和3年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。</p>	
令和3年10月～ 12月末	<p>補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。 居室にカメラ設置の為、ご家族へ説明しご理解を得る。</p>	
令和4年3月1日	<p>施設内で発生した新型コロナウイルス感染により、工事を期限内に完了させることが難しくなったため事業中止とし、県より承認を得る。</p>	
令和4年7月末	<p>令和4年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。</p>	

令和4年9月～ 令和5年1月末	補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。 居室にカメラ設置の為、ご家族へ説明しご理解を得る。	
令和5年2月末	工事完了。	
令和5年3月～ 3月末	職員へ機器操作勉強会を行う。	
令和5年4月～ 令和6年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 見守り機器導入により、カメラの記録から介護事故検討対策を明確にし対応する。	
令和7年4月～ 令和8年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 職員の使用状況を把握し、業務や心身面の疲労度確認、課題について対策を検討。 業務の効率化に伴い、ご利用者との関わりについてADL状況の観察により個人に応じた介護等の見直し。	
令和8年4月～ 令和9年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。 ご利用者の安全確認の効率性、介護事故の軽減や体調変化時の対応状況の確認と改善。 働きやすい職場環境と人材確保の検証。	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）